

## 社会的排除の克服へ向けての社会教育的アプローチ

ーホームレス支援団体に着目してー

山田 航平\*

### 1. 本研究の目的

無縁社会や孤独死の問題をとおして考えてきたことは、形式的な社会的関係の結びつきは弱まりつつあるということと、社会的関係の質が問われているのではないかとということである。社会を生き延びるための社会的関係とは何かと問い直し、研究テーマとして社会的排除に着目した。貧困研究に携わる日本大の岩田正美によれば、ホームレスであることは、社会的排除を受け、社会的関係を喪失した状態であるとされる。このような人びとにおける社会的排除の克服とは、社会的関係を回復することであるといえよう。

北海道大の宮崎隆志は、社会教育学の観点から、社会的関係に関して学び合いの関係として考察し、その関係性は、応答性、省察性、共感性、協応性の4つがある場で育まれると指摘している。つまりこの4つの性質があるとき、社会的関係を結ぶことができる場として機能するのではないかと考えた。本研究の目的は、2つのホームレス支援団体における応答性、省察性、共感性、協応性をそれぞれ明らかにし、ホームレス状態の人びとが社会的関係を結ぶための要素を考察することである。

### 2. 構成

序章 問題の所在と本研究の目的

第1章 社会的排除

第1節 社会的排除

第2節 社会的排除と社会的関係の喪失

第2章 社会関係資本と社会教育

第1節 社会関係資本

第2節 社会関係資本と社会教育

第3章 ホームレス状態を取り巻く社会関係資本についての事例研究

第1節 事例研究を行う理由

第2節 NPO法人自立生活サポートセンター・もやい

第3節 NPO法人北九州ホームレス支援機構

第4章 事例における社会関係資本の分析と社会教育の役割

終章 研究のまとめと今後の課題

### 3. 概要

第1章では、社会的排除の概念を整理しつつ、社会的関係の喪失を社会的排除の問題に位置づけた。また、ホームレス状態の人びとは、社会的関係を喪失した状態であることを示し、社会的関係を回復することが社会的排除を克服することであることを述べた。

第2章では、社会的関係を結ぶ基盤を社会関係資本として位置づけ、そこで学び合いがなされる場となるための要素を考察した。具体的な要素について、応答性は、コミュニケーションができる場であること、省察性とは、被支援者の言葉によって支援者が自身の反省を行うこと、共感性とは、被支援者と支援者が同等の場を認識すること、協応性とは、同等の場にたいしてなんらかの行動を示すことであると定義づけた。

第3章では、2つのホームレス支援団体における事例をそれぞれ文献によって検討し、ホームレス状態の人びとにたいする支援の実状と、支援者の姿勢や言葉を析出した。

第4章では、第3章で析出した支援者の被支援者にたいする姿勢や言葉に関して、第2章で

\* 筑波大学 人間学群 4年

定義した社会関係資本の要素に当てはめて整理した。まず、応答性が発展していくことによって、支援者と被支援者において、何らかの同等な場が生まれることを明らかにした。つぎに、同等な場を踏まえて信頼関係ができあがり、協応性が認められるようになることを指摘した。

終章では、本研究のまとめを行い、残された課題として応答性、省察性、共感性、協応性のそれぞれが、どのような学び合いの関係となっているのかについて明らかにすることを挙げた。

#### 4. 主要参考文献

- ・岩田正美『社会的排除—参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008、16-106頁。
- ・宮崎隆志「モデルなき時代の社会教育」『社会的排除と社会教育』日本の社会教育、2006、14-19頁。
- ・奥田知志（共著）『ホームレス自立支援—NPO・市民・行政協働による「ホームの回復」—』明石書店、2009。
- ・うてつあきこ『つながりゆるりと 小さな居場所「サロン・ド・カフェ こもれび」の挑戦』自然食通通信社、2009。